

謝 辭

謝 辞

本論文は多くの方々の厳しいご指導，温かいご協力があつてはじめて完成することができました。

研究の発案から，対象者の収集，データの解析，論文の投稿まで，幅広くそして懇切丁寧にご指導くださいました筑波大学体育科学系助教授の田中喜代次先生に深く感謝いたします。また，先端学際領域研究センター（TARA）の「高齢者の総合的 QoL 指標の開発」プロジェクトにも関与させていただいたことで，本研究の促進に配慮くださったことにもお礼を申し上げます。

小川町国保中央病院長の井上雅樹先生には，研究の立ち上げ当初から多大なるお力添えをいただきました。筑波大学附属病院ご在職中には，ご多忙にも関わらず研究計画の推進にご尽力いただきました。筑波大学医学研究科博士課程の蒲原一之先生には，被験者の収集に東奔西走していただき，また長きにわたる実験期間においてさまざまな測定方法をご教授いただきました。臨床医学系の先生方なしでは，ここまで研究を全うすることはできなかつたと思います。この場をお借りして深謝いたします。

本論文を差読いただきました筑波大学体育科学系助教授の鯨坂隆一先生には，医師の立場から臨床研究の難しさと患者への配慮に関する多くのご助言をいただきました。また経験豊かな研究成果から得られた英知をご教授いただき，本論文の大きな改善につなげることができました。筑波大学体育科学系助教授の西保岳先生には，科学論文執筆の難しさと論理構成の重要性についてご指導いただき，最後まで細心の注意が必要であることについてもご教授いただきました。真摯なご尽力をいただいた両先生に深く感謝いたします。

また，田中・西嶋研究室の諸先輩・後輩にも感謝の意を表したいと思います。難しい被験者の測定にもかかわらず快く引き受けてくれた彼らなしでは，ここまで研究を進めることはできなかつたと思います。測定のみならず，さまざまな研

究に関する議論を日々交わすことができたことは学生生活における財産となり、今後の研究生活の大きな糧になると確信しています。

最後になりましたが、私の我が儘を6年間の長きにわたり見守っていただきました父（容弼）と母（由紀江）には心から感謝したいと思います。

ありがとうございました。

平成15年2月13日